

事故に気を付けましょう

耳掃除中の事故にご注意

事例①

綿棒を耳に入れて遊んでいたところ、ソファで横になったときに奥に入れてしまい、鼓膜に穴が空いた。(2歳 女児)

事例②

子どもの耳掃除をしていた際、子供が動いたため耳かきが奥に入って耳の中に傷がついた。(4歳 女児)



- 乳幼児の手が届く場所には、耳かき棒や綿棒を放置しないようにしましょう。
- 子供の耳掃除をする際には、子どもに、動くとかげをするおそれがあることをよく理解させ、安定した姿勢、場所で行うことが大切です。
- 耳あかは耳の入り口のほうへ自然に押し出されてきます。耳掃除は、入り口から1センチ以内の見える範囲にとどめましょう。けがをした場合は医療機関を受診しましょう。

歯磨き中、喉突き事故などに気を付けて

事例①

歯ブラシを口にくわえてソファに座っていたが、前のめりに転倒し歯ブラシが刺さった、親が歯ブラシを抜き、歯医者に行ったが、その後発熱し首に腫れもあったので別の病院を受診したところ入院となった。(1歳)

事例②

歯ブラシを口にくわえて走っていたところ転倒し、歯ブラシが喉に突き刺さり、口の奥から出血した。血は自然に止まったが、発熱し、元気がないため救急外来を受診し、8日間入院した。(4歳)



- 歯磨き中は保護者がそばで見守り、床など安定したところに座らせて行いましょう。
- 歯ブラシを口に入れたり、手に持ったまま歩かせないようにしましょう。
- 子ども用歯ブラシは、のど突き防止カバーなどの安全対策を施したものを選ぶようにしましょう。